

永坂嘉光 高野紙写真室



価値を見直す 価値を生む

弘法大師が中国から製法を伝えたとされる手漉き和紙「高野紙」。

文書用のほか、厚手の紙を活かし傘紙・障子紙・合羽等としてその昔は利用され、最盛期には約300軒の家々で紙漉が行われていましたが手間暇のかかる高野紙の需要は落ち込み、現在高野紙の紙漉は一人の女性が背負う状況となっています。

当院は、高野紙の価値を見直し、様々な角度から高野紙の保存・活用を提案する高野紙プロジェクトを応援しています。



写真家 永坂嘉光

和歌山県高野山生れ。1970年頃から故郷高野山をライフワークに撮影をはじめ、宗教と文化をテーマに日本各地やインド、ブータン、スリランカなどアジア各国を取材する。

現在、大阪芸術大学写真学科教授。

主な写真集に『高野山』(毎日新聞社 1980)、『弘法大師の足跡』(同朋舎 1984)、『高野山千年』(ぎょうせい 1989)、『永遠の宇宙 高野山』(小学館 2001)、『聖なる自然 高野山から』(光村推古書院 2008)などがあり、とんぼの本シリーズにも『巡礼高野山』(1990)がある。

2004年日本写真芸術学会芸術賞受賞。2007年社団法人日本写真協会作家賞受賞。2009年度和歌山県文化功労賞受賞。